

〔月刊〕キリスト教書評誌

本のひろば

April
2023 4

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2023年4月1日発行（毎月一回1日発行）第784号

● 出会い・本・人

自分のなかに歴史をよむ 石原知弘

● 特集 会衆のイメージを刷新する説教のために
平野克己さんの、この三冊！

● 本・批評と紹介

石丸昌彦著 老いと祝福 足田勝子

大野恵正著 旧約聖書入門4 藤井清邦

J・ゴールディングイ著／本多峰子訳

神の物語としての聖書 田中 光

朝岡 勝著 大いに喜んで 牧田吉和

日本キリスト教詩人会編 聖書における光と影 柴田三吉

フスト・ゴンサレス著／神代真砂実、高野佳男訳

21世紀のキリスト教入門 小島誠志

大井 満責任編集 キリストの日に向かって 藤原導夫

中井珠恵著 スピリチュアルケア 入門篇 島菌 進

既刊案内

書店案内

交差するパレスチナ

新たな連帯のために

3月24日

在日本韓国YMCA編

差別の複雑な実態を明らかにし、それへの抵抗にインスピレーションを与える「交差性」の概念を手がかりに、パレスチナに学び、パレスチナと共闘する。2021〜22年に開催され反響を呼んだオンラインセミナーが待望の書籍化。寄稿者：ニダル・アブズルフ／金城美幸／北川眞也／阿部小涼／保井啓志／中村一成／太田昌国／役重善洋／早尾貴紀。

◆四六判・定価2640円

コヘレトの言葉

人生を生きよ

3月17日

ヴァルター・リユティ 著／宍戸達 訳

旧約の知恵への福音的アプローチ



コヘレトはニヒリストではない！「すべては空である」と観ずる旧約中の異色の書。しかし著者はコヘレトを、神への信仰に立って自らの人生を生きよと勧める人として読む。傑出した説教者による力強い講解！『説教者ソロモン』を改訳・改題して贈る。

◆四六判・定価2310円

旧約聖書 文学書

要約と概説

3月17日

宮平 望 著

あらたな旧約入門シリーズの第3弾！

旧約の諸文書を章ごとにヘブライ語原典に基づいて要約し、メッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、旧約の複雑多様な世界を読み進めるための絶好の手引き。ヨブ記 詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌を扱う。【既刊】は律法書、歴史書。

◆A5判・定価2090円

旧約聖書

物語としての歴史

B・W・アンダーソン 著／高柳富夫 訳

1月25日

神を尋ね求めた
人々の言葉



1957年の初版以来4度におよぶ改訂を重ね、今日まで旧約入門・概説書として絶大な信頼を得ている名著。史的研究、考古学的調査、文学批評、聖書神学に及ぶ。

◆A5判・定価7920円

エリックとマチルダ

【絵本】

ミーシャ・リヒター作、みつじまちこ訳

2月24日

思いを伝える方法ってなんだろう？

エリックはマチルダに一目ぼれ。彼女の気を引こうとしますが、全然振り向いてくれません。すっかり落ち込む彼に森の賢者が与えたアドバイスとは……。作者はウクライナ出身の漫画家。

◆A4変型判・定価1980円





自分のなかに歴史をよむ

石原知弘

高校生のとき、牧師の息子であるという友人を通してキリスト教と出会い、その未知の世界に関心を抱きました。すぐに求道と言えるものが始まったわけではありませんでしたが、読書家の友人の影響で本を読むことのおもしろさを知るようになり、それは読書の習慣がほとんどなかった私にとって、やがて聖書という書物を読むようになるための備えとなりました。

地元の岡山から東京の大学に進学してすぐの頃、在籍していた学部の教授で歴史家の阿部謹也氏の『自分のなかに歴史をよむ』という小さな本を読んだことが、キリスト教にまた一歩近づききっかけとなりました。中学生のころにカトリックの修道院の施設で生活していたことがあったという阿部氏は、大学時代に恩師から「それをやらなければ生きてゆけないというテーマ」を探すように言われ、ドイツ中世史の研究者となったというのでした。

はたして自分には、それがなければ生きていけないと言える

ほどのものがあるだろうかと考える日々が続く中、東京での学生生活を通して次第にキリスト教が心の中を大きく占めるようになっていくことに気づきました。大学三年の冬、それまで断片的に読んでいた聖書にあらためて向き合ってみようと、岡山へ帰省する新幹線の中で新約聖書をはじめから読んでいきました。すると、高校時代の出会い、本を読むという経験、考え方や心の変化、そうした自分のなかのささやかな歴史にも、この聖書の神が生きて働いておられたのではないかという思いに導かれました。それは、これがなければ生きていけないというよりも、この神に生かされてきたのだという実感でした。翌年、友人の父親から洗礼を受け、また新たな自分の歴史が始まりました。

あれからおよそ三十年。今でも聖書を読んでいると、あの日の新幹線の中にいるような気持ちになります。

(いしはら・ともひろ 日本キリスト改革派東京恩寵教会牧師)



説教とは、私たちが抱くイメージを、聖書が描き出す
新しいイメージに書き換えてしまうこと。

会衆のイメージを刷新する説教のために ▼平野克己さんの、この三冊！

——平野先生に初めてお目にかかったのは、先生がアメリカ留学から帰って間もない二〇〇三年でした。

あれから二十年、日本キリスト教団出版局の編集者として何冊もの本を一緒に作ってきた幸いを感謝しています。昨年の秋には『使徒信条 光の武器を身に着けて』を刊行できました。

二〇〇五年の『主の祈り イエスと歩む旅』、二〇一八年の『説教を知るキーワード』、そして二〇二二年の『使徒信条』。この三冊を私は勝手に

「平野克己三部作」と呼んでいます。いずれも読みやすい比較的小さな本ですが、各々すばらしい作品です。この三冊に貫くものがあると思うんです。それは何でしょうか。

ありがとうございます。確かに、この三冊は、説教者としての私にとって、ひと連りの本であるかもしれませぬ。そこに「貫くもの」とは何か。その答えとして私は、『説教を知るキーワード』の冒頭に記したことをもう一

度お伝えしたいと思います。

「『説教において、もつとも大切にしていることは何ですか』。もしも、あなたが私に尋ねてくださるなら、私はこのようにお答えしたいと思います。『それは、私たちが抱いているイメー



ひらの・かつき…一九六二年生まれ。
日本基督教団代田教会牧師、説教塾
全国委員長。

ジを、聖書が描き出す新しいイメージに書き換えてしまうことです」

キリスト者というのは、この世に流通している（能力主義や自己責任といった）イメージとは異なる、もう一つのイメージを生きる民です。小さな小さなからし種を見て、その中に秘められた神の国を思い描く。そういう聖書に根ざしたイメージが、この三冊を貫くものではないでしょうか。

*

先ほどお話しくださったように、私は四十歳のときに一年間、アメリカのデューク大学で説教を学ぶことができました。帰国してすぐ月刊誌『信徒の友』に連載したものを書籍化したのが『主の祈り イエスと歩む旅』です。当時のアメリカでは教会の衰退が明らかであり、いかにすれば会衆に伝わる説教が可能なのか、説教者たちが懸命に考えていました（詳しくは、平野

克己』いま、アメリカの説教は——説教のレトリックをめぐって』キリスト新聞社、二〇〇六年をご覧ください。この最初の留学で私が学んだことが、まさにイメージを書き換える説教ということなのです。聖書が伝えようとしている新しいイメージ、新しいものの見方。それを響かせる説教とはどういうものか。そういうことをアメリカで学んできて、これを実際に文章で表現してみたのが本書です。

主の祈りを祈ることを通して、私たちは主イエスがこの世界を、そして私たちを、どういうイメージでご覧になっっているかを知ることになります。

本書の最初の章「聞こえますか、主イエスの声か」には、「主の祈りが次のような祈りであつたら、もつとなじみやすかつたでしょう」とあり、続けて私の創作したこんな祈りを記しました。「……わたしの願いが実現します

ように、わたしに一生の糧を与えてください、わたしに罪を犯す者をあなたが罰し わたしの正しさを認めてください……」。こういう祈りが私たちになじみやすい、本心から出る祈りかもしれません。

でも主の祈りはそこに立ち向かってきます。「……みこころの天になるとくとく 地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ……」。私たちはつい自分の狭い心に主イエスを押し込めてしまします。でも主の祈りを祈り続けることによって、私たちは主イエスの心をわが心として生きることができるようになります。

*

『説教を知るキーワード』は、こうした聖書的イメージを伝える説教をどうすればできるのか、その手ほどきとして書いたものです。

日本の説教の第一人者であり、私

の師である加藤常昭先生の大きな仕事は、説教準備のプロセスとして、聖書からいかに黙想するかを明らかにしたことです。でもその黙想からどうやって説教を生み出すかについては、加藤先生はあまり語っていません。私はそこを解明したいという思いがあります。エーリッヒ・フロムの『愛するということ』という有名な本がありますが、その書き出しはこうです。「愛は技術^{アート}だろうか。技術だとしたら、知識と努力が必要だ」。

説教とは愛の言葉です。会衆を愛し、慈しむゆえに説教者は説教を語るることができます。そして愛の言葉である説教は、アートです。技術であり、表現です。それゆえに、説教には知識と努力が必要だし、修練を積むことで説教を習得することができるはず。

そのために不可欠な三六の項目を挙げ、本書で解説しました。

例えば、「例話」という項目があります。その冒頭には左近淑生の説教を掲げました。左近先生は「外は雨だ。機体のドアを開いてごらん」と説教を語り始めます。これはハイジャックされた飛行機の中で、乗客が乗っ取り犯に向けて、語った言葉です。

そしてハイジャックされた飛行機と、現代世界と、哀歌の時代の三つを（閉ざされた世界」というキーワードで捉えていくのです。説教の冒頭に置かれたハイジャックの例話が、説教全体を統一し、詩的で強固なイメージを聴き手に残していくすばらしい説教です。

こうした具体例をたくさん織り混ぜつつ、説教の基本となる項目を解説しました。説教者にとって参考になるのはもちろん、会衆席にいる信徒の皆さんにとっても、説教とは何をする業なのかを知る面白い本だと思います。

*

私たちは使徒たちと共に、世界中の人々と共に歓呼の声を挙げます。「アーメン、主イエスよ、来てください」。

キリスト者が礼拝^{レイト}ごとに口にする「かしこより来りて……」には、こういう鮮やかなイメージが込められています。世に使徒信条の解説書はたくさん

ありますが、本書の特徴はやはり、このようなイメージの豊かさに注目したところにあるでしょう。

私たちの教会に、使徒信条が伝える、聖書のイメージによって生きている人々がすでにいます。それを示すために本書には有名無名を問わず色々な

『使徒信条 光の武具を身に着けて』は、コロナ下で『信徒の友』に連載し、ウクライナの戦火の報を聞きながら書籍にまとめたものです。

「かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん」を取り上げた章には、南アフリカで人種差別の中を希望を抱いて生きたキリスト者、ネルソン・マンデラが出てきます。その後、こんなふうに書きました。「あなたの教会にも、恨みと復讐、絶望と沈黙を強いられて当然のような状況の中で、まるですでに新しい世界が訪れているかのように、なおも何ごとかを希望しながら、信仰と希望と愛に生きている人たちがおられるでしょうか？」。

この世界は「罪と死と悪魔の力」によって支配されているかのようです。でも私たちは、聖書の最後に記されたキリストの言葉を知っていますね。「然り、わたしはすぐに来る」。そして私

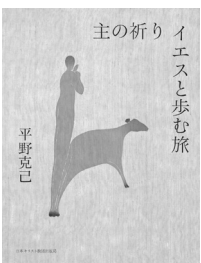
人々が出てきます。それを読みつつ、自分もまた「何ごとかを希望しながら」同じイメージに生きている神の民なのだと思いついてほしいのです。

使徒信条は信仰者の「光の武具」。これを身に着けて、信仰の旅路を踏み出しましょう！

(聞き手・日本キリスト教団出版局)

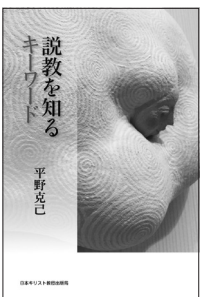
『主の祈り イエスと歩む旅』

平野克己：著
日本キリスト教団出版局
2005年刊
四六判変型 104頁
1,430円



『説教を知るキーワード』

平野克己：著
日本キリスト教団出版局
2018年刊
四六判 160頁
1,650円



『使徒信条 光の武具を身に着けて』

平野克己：著
日本キリスト教団出版局
2022年刊
四六判 128頁
1,430円



老いへの対策と 老いの効用、恵みを知ろう

〈評者〉 疋田勝子



老いと祝福
石丸昌彦著



私は現在八〇歳近くで、内科と整形外科に通いながら十種類の薬を服用し杖をついての生活をしています。年とともに、先々を考えると不安なことがいろいろ出てきます。そんな私が精神科医師の石丸昌彦先生の著書『老いと祝福』に出会いました。これは、私がこの世での人生を閉じる前の神さまからのプレゼントだと思いました。著者が深い信仰と豊富な知識をもって、「老い」は「恵み」だと、こころに響くかたちで教えてくれるからです。

本の「はじめに」の部分で、柏木哲夫先生の著書『老い』はちっともこわくない——笑顔で生きるための妙薬』が紹介され、石丸先生は「考え方と工夫次第で老いは『それほどこわくない』、あるいは『案外悪くない』かもしれません」（五頁）と述べています。私はこの本を読んで、むしろ「老い」をこわく思ってもよいのだと安心しました。

ためにいちばん大切なもの、すなわち神との関係は「祝福」をまず理解しないと始まらないという著者の意気込みが感じられます。

こうした序章から始まる本書は、「今日の老いの現実」「『老い』を見直す世界の流れ」「老いの日々を健やかに」「聖書の教えと親の背中」と、四部構成で、それぞれ「老い」をいろいろな角度から捉えています。印象に残ったのは、「老い」（老化）を見直す発想の転換です。「エイジング」およびその訳語である「加齢」という言葉によって、「老い」をより大きな視点から考えることができます（七六頁）。「加齢の効用」（二二二頁）では、老いの長所が精神科医の知見から具体的に述べられていて、励まされます。高齢になると何といっても、親しい人との死別を多く体

「老い」はなぜこわいのか、その原因を突き止め、その対策をみんなで解決していく方法を示しているからです。

序章では、老いと祝福はどんな関係があるのかをひもときつつ、問題提起をします。「古来、どこの文化圏でも長寿は祝福の象徴でした。……平均寿命が劇的に延伸して世界でも一、二の長寿国になった日本は、まことに祝福の満ちた国であり、そこに住む私たちも長寿の命をひたすら喜んでいられるはずです。けれども今『老いと祝福』というテーマを掲げる背景には、老いの日々が実際には苦しいものであり、私たちがそれを素直に喜んでばかりいられないという実情があります……『老いの困難の中いかに祝福を見いだすか』。

「祝福とは何か」は著者自身の課題でもあり、このように本書の随所で問いかけられています。人間が生きていく験します。私はつい最近それを体験し、つらい思いから抜け出せなっていました。しかし、大事な存在のイメージが心の中にしっかり保たれていることを「対象恒常性」と呼び、その確立によって「慕わしい相手は確かに存在している」との感覚を持ち、内なるイメージと対話できるのだと知りました（一九七頁）。ここを読んでつらさを乗り越えることができたのです。これは大きな収穫でした。

この本を読み終えたときに、「老い」も「死」も受容でき、「老いと祝福」は「神共にいます」という意味であることがわかりました。そして「祝福」をいただいた者は祝福を伝える者としての務めがあることも教えられました。

（ひきた・かつこ）日本キリスト教団本庄教会協力牧師
（四六版・二二六頁・定価二四二〇円・日本基督教団出版局）

遠藤周作生誕100年記念出版



遠藤周作探究 全3巻〈第1回記念本〉 新シリーズ刊行開始！ II 遠藤周作『深い河』を読む マザー・テレサ、宮沢賢治と響きあう世界

山根道公

遠藤周作が『深い河』にこめたメッセージを、遠藤研究の第一人者である著者が解き明かし、私たちが愛と寛容に開かれた宗教理解へと促す。生誕百年を記念して改訂復刊。 A5判・304頁・定価3520円

好評
発売中



非暴力の教育 今こそ、キリスト教教育を！

小見のぞみ

大人も、子どもも、みんなが傷ついている今こそ、愛し合い、支え合い、共感し合う教育を。キリスト教教育・保育の現場で働くすべての方に贈るキリスト教教育入門。 A5判・136頁・定価1760円

好評
発売中

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 〈価格10%税込〉

<https://bp-uccj.jp>

歴史書の信仰的意味を 深く読み解く

〈評者〉藤井清邦

旧約聖書入門
4
現代に語りかける歴史書
大野恵正



旧約聖書入門 4
現代に語りかける歴史書

大野恵正著



時折「旧約を読むと難解に感じ、どのように読めばよいか」と質問を頂くことがあります。旧約が難解に思えるのは、単に旧約に触れる機会が少ないことや、新約に比べて親しみが薄いという理由によるのではないでしょう。そこに記された御言葉を、どのように読み受けとめればよいか分からず、その理解に悩むからではないでしょうか。ですから、良い信仰の手引きを得ることによって、旧約に向き合う私たちは大きな助けを与えられます。

二〇二二年十一月、大野恵正先生が著された『旧約聖書入門4 現代に語りかける歴史書』が発刊されました。この旧約入門は、二〇一三年に第一冊目が発行されて以来シリーズで出版されているもので、いずれも優れた信仰の導きとなる書物です。

今回発行された第四冊目『現代に語りかける歴史書』は、

深い意味が見つめられています。

この旧約聖書入門は、旧約の御言葉が、現代に生きる私たちへの励めと励ましを語っていることに気付かせるものです。本文中には次のような一文があります。「聖書の言葉というものは多重性を持っていて、過去に語られた言葉がそれぞれの時の中で、新しい意味を帯びて人間を生かしたのです。私自身にしたところで、これまでの生涯で、幾度こうした事態に直面してこの呼びかけを聞いたかしれません。聖書の言葉はさまざまな状況にリアルな意味を持つのです。」(21頁)と。また、この書物を読み進めると、そこに主イエス・キリストの御姿が浮かび上がっていることに、感動と共に気付かされます。

著者である大野恵正先生は、長野県町教会、伊東教会、

ヨシユア記、士師記、サムエル記上・下、列王記上・下、歴史誌上・下、エズラ喜、ネヘミヤ記、ルツ紀、エステル記を扱ったものです。いずれも教会の礼拝で取り上げられることは少ない書物ですが、これら一つ一つの書物の概要を的確に示すと同時に、各書物の主要なテーマや出来事に焦点をあて、分かりやすく解説されています。

著者は、「歴史と言っても、近代的な世俗史(つまり「神」なしの歴史)とは違って、神ヤハウェとの関係の中で彼らイスラエルがどのように神との契約を守ろうとしたか、それに背くことによってどのような生活を余儀なくされ、ついにはどのようにして滅び去る経緯を辿ったかを描いています。：旧約の歴史叙述はすべてを射抜く神ヤハウェの眼差しから逃れ得ない性質を持っています。」(14頁)と記しておられ、そこに旧約の歴史書の信仰における

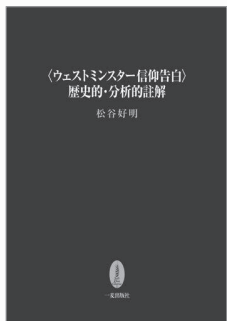
浜松教会を牧された後、長崎の活水女子大学でお働きになり、新共同訳聖書旧約部門翻訳委員としての働きも担われました。先生は長崎在任中、長崎古町教会で毎主日の礼拝を守っておられました。私は同教会の牧師として遣わされ、先生の礼拝者としての姿、教会員のために祈り心に寄り添っておられる姿を目の当たりにさせて頂きました。本書からは、聖書学の深い知識と神学的洞察はもとより、一人の牧者、信仰者として敬虔なる思いをもって御言葉に向かい、そこに語られる神の御心を受けとめながら歩んでこられた先生の信仰の姿を感じずにはいられません。この旧約聖書入門シリーズは、旧約の御言葉に向き合う多くの方に、ぜひ手に取って頂きたい書物です。

(ふじい・きよくに) 日本基督教団聖ヶ丘教会主任牧師
(小B6判・四〇〇頁・定価二〇九〇円・新教出版社)



(ウェストミンスター信仰告白) 歴史的・分析的註解

松谷好明
MATSUTANI Yoshiaki



わが国初にして 世界的水準の本格的註解

本信仰告白に取り組む教職、神学生、知解を求める長老・信徒にとって必読の書となるであろう。理解を深める巻末の「資料篇」、さらに附録「図表」(6点)を収める。

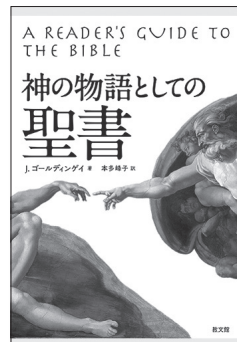
菊判・上製
定価 11,000 [本体 10,000 + 税] 円
ISBN978-4-86325-146-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

旧約聖書がわかるよ、福音がもっとわかる！

〈評者〉田中 光



神の物語としての聖書

J・ゴールディングイ著
本多峰子訳



正直に白状すると、J・ゴールディングイについて、私には以前勝手な思い込みがあった。彼がフラー神学校という福音派の神学校で教鞭を執っているということは前々から知っていたので、いわゆる「福音派」の神学的理解を、旧約聖書学を通して主張する人物だろうというレッテルを貼っていたのである。

ところが、ゴールディングイの様々な著作物を実際に読んでみると、彼の旧約聖書の読み方は、旧約聖書を無理やり「キリスト教化」するような読み方とは著しく異なり、旧約聖書の内容をできるだけ客観的で学問的に語るものであることがたちどころに明らかとなる（私が授業のために最近参照するようになった彼の詩編注解などはその一例である）。一方では、彼は英国国教会の司祭でもあり、旧約聖書学を明確に教会に仕える学問として位置付けることも

忘れない。彼のフラー時代の同僚で、新約学者のJ・グリーンもこの両面を指摘して、ゴールディングイの学問的スタイルが高度に学問的でありながら、同時に福音を旧約聖書から躊躇なく宣言するものであると評している（フラー神学校が運営するYouTubeチャンネル「Fuller Studio」でのゴールディングイの紹介動画参照）。

以上のような彼の聖書解釈に対するスタンスは、今回翻訳出版された聖書六六巻の解説書である『神の物語としての聖書』においても明らかである。まずゴールディングイは、聖書を読むためには、「聖書の背後にいる神と、聖書の背後にいる人間の両方に共感しなければならぬ」（一五頁）と述べて、聖書を読む際の基本的スタンスを定める。その後、ゴールディングイは一足飛びに聖書の内容にアプローチするのではなく、まずは聖書の背景となっている

歴史的な文脈と地理的背景について明らかにする（第1―2章）。彼はその上で、実際の聖書の内容の解説へと移る。まず、物語としての聖書の内容が解説されるが（第3―7章）、その際、注意深く述べられるのは、聖書の内容はいわゆる客観的な歴史記述とは異なり、神と神の民についての「物語」としての性質を保持しているということである。続いて、物語以外の性質を持つ聖書の内容が「神の言葉」として解説され（第8―12章）、そして神の民の神への応答としての内容を持つ聖書各書の解説がなされる（13―14章）。

締めくくりに章においてなされるゴールディングイの旧約聖書に関する神学的考察は特徴的である（第15章）。彼は伝統的なキリスト教的用語を用いなくとも（例えば、

「キリストを証しする旧約聖書」など）、旧約聖書の教会にとっての意味を説明できることを読者に示して見せるのである。

本書は、個人的な学びだけでなく、教会や学校での学びなどにも相応しい内容を持っている。もともと、読者は「物語としての聖書」という概念に若干の分かりにくさを感じるかもしれないし、牧師や聖書を教える教員であれば、最終章の旧約聖書の神学的理解に若干の物足りなさを感じるかもしれないが、そうしたことがかえって更なる学びのきっかけとなるであろう。最後に、大変分かりやすく正確な翻訳をして下さった本多峰子氏に心からの感謝と敬意を表したい。

（たなか・ひかる『自由が丘教会牧師／東京神学大学准教授
（四六判・二二八頁・定価二六四〇円・教文館）



新刊
死生学年報
2023

死生学の拡がり

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 定価2,750円

メンタルヘルスと死生観
スピリチュアリティの二つの枝
石丸昌彦

●
死者とデジタルに再会する技術
死者AIの現在とそれがもたらす
諸問題を考える
佐藤啓介／市川岳／有賀史英

●
『鬼滅の刃』から見た
現代日本人の死後観
石井研士

●
スピリチュアリティと
フェミニズムの〈あいだ〉
女性の身体性と「自然」をめぐる
橋迫瑞穂

●
認知症の心理学
認知症の人の心の世界
佐藤眞一

●
老いる人びとと
多様な〈死者〉との縁
後藤晴子

●
ハンナ・リデルの藍綬褒章
「救贖」の宗教から国家への転換点
松岡秀明

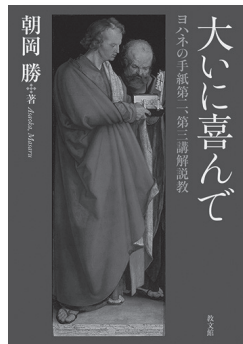
●
他、1篇・死生学文献紹介

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

聖書講義を超える、講解『説教』の本来のあり方を示す説教集

〈評者〉 牧田吉和



大いに喜んで

ヨハネの手紙第二、第三講解説教

朝岡 勝者



本書は「愛の手紙」と呼ばれるヨハネの手紙の第二・第三に関する連続講解説教集である。収められている九編の説教は、著者が二〇年にわたって牧師として仕えてきた群れのために、群れを辞し、新しい任に就こうとする狭間の中で、しかもコロナ禍、会堂建築のただ中でなされたものである。パウロのエペソの長老たちへの告別説教にも似た、去り行く群れへの牧会者の全ての思いが込められた説教集である。

一読して思わされることは、説教者としての著者の姿勢である。著者自身がキリストにおける神の愛に捉えられ、生かされ、動かされつつ牧師・伝道者として全身全霊をささげて説教をしているという事実である。「大いに喜んで」という本書のタイトルは何よりも説教者自身の思いを言い表している(一二九―一三二頁)。この意味で、本書に収

められた説教は「キリストの愛に生かされた説教者が、キリストの愛に生かされた群れの一人一人に、キリストの愛に生き続けるように、大いなる喜びに生き続けるように促してやまない説教」と性格づけることができる。「愛の手紙」といわれるヨハネ書簡の性格と見事に響き合って語られた説教である。

本書は講解説教の『本来のあり方』を提示している。単なる聖書講義ではない。確かに釈義を踏まえているが、テキストの核心を捉え、講義ではなく、講解『説教』として語られている。このような講解『説教』が成り立つためには、一方では説教テキストに対する、他方では聴き手としての群れとその一人一人に対する祈りを伴った深い「黙想」を必要とする(二二―二二頁)。本書には「黙想」の果実をあちこちに見出すことができる。教会の具体的な

諸問題、群れの一人一人の羊たちのことが御言葉の光に照らされて語られている。しかも、個人的靈性の枠にとどまっていない。聖餐を中核とした教会論的見通し、社会と世界に対する見通しの中で語られている(一〇二頁、一四七―一四八頁)。説教の背後に堅固な神学的基盤がある。この意味でも本書は、講解『説教』の本来のあり方を示していると思う。

本書の巻末には、小論「語られ、聴かれ、生きられるみことば——説教を巡る小さな論考」が掲載されている。著者の説教論の一端を明らかにしている。そこでは「説教者と聴衆の「思いのすれ違い」の問題が取り挙げられている。説教者の側からは「どのように聴かれ、どのように届いているのか」の問題、聴衆の側からは「御言葉が聴けない」

という苦悩の問題である。この問題は「公に」論じられることはあまりない。時には触れてはならない問題でさえある。説教批判に結びつき、教会に混乱を招きかねないからである。この問題は説教学的にも十分に論じられてきたわけではない。しかし、この両者の「思いのすれ違い」の問題が健康な姿で教会内で「公に」話し合われる時、説教には大きな希望が生まれる。著者が目指すように「語られ、聴かれ、生きられる説教」が生まれるからである。巻末の小論をテキストにして、教会内で語り合われることを強く期待したい。本書は小さな説教集であるが、靈的にも、説教学的にも読むに値する説教集である。

(またた・よしかず) 日本キリスト改革派福音伝道会牧師
(B6判・一六〇頁・定価一九八〇円・教文館)

ヨベルの新刊案内

E・H・ピーターソン 友川榮監訳 川上直哉・齋藤顕
サム・マーチー訳

聖書に生きる366日 二日一章

ASB判 聖書上巻 四四〇頁・一五五〇円

「この時代を生き抜く」テキストとして読まれた聖書を、366日をかけて味わい、たどり直し、いのちの灯をともし、クリスチャンとノンクリスチャンが混在する教会の現場で身をもって記された「珠玉のことば」。2018年にその生涯を終えたユージン・H・ピーターソンの記念的確軌跡。

ヘンリー・ナウエン 友川榮編訳

イエスの示す道 受難節の黙想

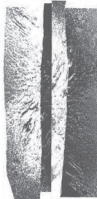
四六判・三四頁・一八七〇円

受難、巡礼、静まり、祈り…。魂の欠片を現代に取り戻す。祈るのはわたしではなく、神の聖霊がわたしの中で祈っておられるのだと。……身近すぎるなどという理由で神の栄光に浴することができない、ということはありません。同時に、新しくされないものなど、何一つありはしないのです。(本書より)

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

祈りの泉

〔評者〕柴田三吉



詩集
聖書における光と影
日本キリスト教詩人会編

詩集

聖書における光と影

日本キリスト教詩人会編



病を得た人、苦境に陥った人に、見舞いや励ましの言葉を送るとき、文末に「……を祈っております」という言葉をたびたび使います。常套句ではなく、心からそう願っていることですが、こう書くたび私は、いったい誰に向かって祈っているのだろうかという思いを抱きます。私は信仰の門の外に立つ者なので、神仏に向けてではありません。けれど祈りの気持ちは迷いなく湧いてきます。人は誰でも自分を超えた何かを心の内に持つのでしょ。その祈りこそは、人が人である証として心の奥深くから湧き出る、最も美しい泉であるように思います。

本書は前半を旧約聖書、後半を新約聖書における光と影とし、一六名の詩人（中山直子・内藤俊宏・古田嘉彦・木村淳子・東延江・中村不二夫・岡野絵里子・樋口忠夫・井上英明・柴崎聰・斎藤菜穂子・時澤博・佐野亜里亜・川中

す。

〈聖絶されたのは偶像と偶像により頼む心 思えば私の街は偶像に満ち溢れ 私もまたこの街に縋り付いている この街に聖絶が訪れる時 私は身を隠す亜麻の束を見つけて事ができるだろうか〉と。

新約聖書の章では、旧約聖書が孕む闇（神との契約の厳しさ）に対して、問いの質が変わり、光が闇を包み込むような明るさへと進み出ているように思います。キリスト教徒にとって、神の子イエスの邂逅がよろこびの源泉であることを示しているからでしょう。

大鹿理恵「さまよう影 待ち続ける光」は、抒情豊かな言葉で「影と光は／やがて 一体になり 伸び広がり／うす暗い不安に苛まれていた淡い光をも／飲み込んだ」と書

子義勝・坂井信夫・新延拳）が前後の章に作品を書き、後半には大鹿理恵氏に加わり、三三篇の構成となっています。ここでは、旧約・新約聖書のなかから任意の一節が選ばれ、それらを詩として語り直していきます。「光」と「影」を結び付けたことで文学の視点が鮮やかに示され、そこから人間の不完全さ、不遜、弱さへの「問い」が表れてくるところに興味を覚えました。問うことが文学の出発点であるからです。

旧約聖書の章の巻頭、中山直子「自由になりたい——エバの夢」は、人の自由とは何かという直截的な問いを孕み、中村不二夫「ノアの忘れもの」は、方舟に乗れなかった者とは誰かと問いかけています。そして、聖絶されたエリコを描いた井上英明「亜麻の束」は、現代社会が陥っている危機に触れ、それに抗い得ない自身の弱さを見つめていま

き、これはこの章全体の雰囲気を表しています。また岡野絵里子「パンを焼く女たち」の、大地の豊穡を支える女性性を描いた作品にも光の横溢を感じました。
私は聖書を文学として読んできた者ですが、本書もまた文学が問い続ける「人間における光と影」、そして「愛の物語」として読みました。〈愛は交換ではなく、贈与であり、さらには純粹贈与である〉という、文化人類学がもたらした言葉に導かれながら。人と人を結ぶのは、その顕現である祈りの共有でしょう。祈りの泉は地下の水脈で繋がっていて、問う場所から一歩進み出たところに、豊かな生を紡ぐ道が開かれていくのだと思います。本書がそうしたかたちで多くの人に読まれることを祈っています。

（しばた・さんきち 詩人）

（B6判・一六〇頁・定価一九八〇円・教文館）

ヨベルの新作・既刊案内

四六判・二六頁・一五四〇円

及川信 (京都正教会 / 長崎祭) イースター小品集

わたしが十字架になります

神の鼓動で花ひらく
エデンの園へ、ようい。

聖書と聖伝承を色彩豊かに編み直した物語が、復活祭を待ち望む人の旅の友となる。キリストの受難と復活にまつわる八つの贈り物。

ヨベルの新作・既刊案内

ヨロップ思想史 諸時代

金子晴勇 キリスト教思想史の現代思想との対決

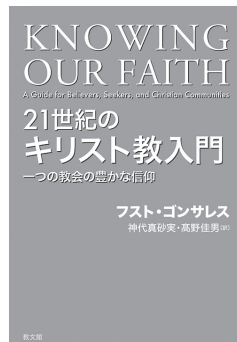
新書判・平均272頁・各巻本体1320円

ヨロップ精神の源流 〔既刊〕
I ヨーロッパ中世の思想家たち 〔既刊〕
II ヨーロッパ中世の思想家たち 〔既刊〕
III エラスムスと教養世界 〔既刊〕
IV ルターの思索 〔既刊〕
V 宗教改革と近代思想 〔既刊〕
VI 現代思想との対決 〔新刊〕 第7回配本
VII 現代思想との対決 〔新刊〕 第7回配本
別巻1 アウグスティヌスの霊性思想
別巻2 アウグスティヌス三位一体論研究

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

教派を超えて受け入れられる キリスト教信仰の核心

〈評者〉 小島誠志



21世紀のキリスト教入門
一つの教会の豊かな信仰
フスト・ゴンサレス著
神代真砂実、高野佳男訳



数多くあるキリスト教入門書の一つと言ってもいいでしょうね。原題を翻訳するところになります。「わたしたちの信仰を知ること」。副題は、「信じている人々、求めている人々、キリスト教共同体の人々のための道しるべ」(Knowing our Faith: A Guide for Believers, Seekers, Christian Communities)。

キリスト教の教理について書かれているのですが、展開の仕方がちょっと違います。いや、だいぶ違っています。序章に「信仰を理解する」という文字通り序章があり、この書物全体の方向性が示唆されています。

多くの入門書は使徒信条の告白に従って、「神について」「イエス・キリストについて」「聖霊について」それぞれの主要な項目について諄諄と説かれます。この本も序章のあと「啓示」「三位一体の創造主なる神」「人間」「贖罪――

イエス・キリストの新しい創造」等、型通りと言えば型通りに展開していくのですがその展開の仕方が違うのです。序章で述べられていることが通奏低音としてのどの章にも響き渡っているのです。

さて、その序章です。カンタベリーのアンセルムスの有名な言葉が引用されその言葉の意味が説き明かされます。「わたしの心が信じまた愛しているあなたの真理を、いくらからでも理解することを望みます。私は信じるために理解することを望まず、理解するために信じます」。

教会が世々告白してきた教理はどうやって生まれたのか、とそのことを著者は述べているように思われます。だからが聖書を研究して、そこにある教理を発見したのでしょいか。たしかにそういうことはまったくなかったとは言えません。しかし、基本はアンセルムスの言う通り、理解する

ために信じたということではないか、そう著者は言っているのです。救い主イエス・キリストを信じる (Believe in) 生き方の中で少しずつイエス・キリストのこととなる神のことが分かってくるのです。神の言葉としての聖書の言葉が分かってくるのです。

ああ、そうか！ そうなのか！

教理はそうやって生まれたのではないか。

文法が出来るようになって言葉が話せるのではないのです。言葉が話せるようになってその話せる言葉の中に一定のきまりがあることが分かるようになります。それに似ているような気がします。

(神を)「理解するために信じ」る、このことがこの書の書かれている根本の姿勢であるために、どの項目でも聖霊

の働きが論じられています。神を信じるということは人間が自分でなし得ることではなく聖霊の働きによるからであります。「私たちが神の恩寵によつて義とされ、聖霊が私たちの内て聖化のために働いていると言うことを理解すれば、この同じ戒めを約束として読むことができます。すなわち、『あなたは、わたしをおいてほかに神を持たないであろう』と。言い換えれば、私たちが本当にほかの神々を持たなくなるような日が来るということです」(一一九頁)。

大事なことを忘れていました。二人の訳者は考慮の末日本語の表題を「21世紀のキリスト教入門――一つの教会の豊かな信仰」とされました。

(おじま・せいし) 日本基督教団久万教会牧師
(四六判・二二四頁・定価二二〇〇円・教文館)

あの夜の出来事を
会衆の中で説教する

説教 最後の晩餐



キリスト品川教会名誉牧師
吉村和雄 〔著〕



品川・御殿山に建つ「キリスト品川教会」。そこで毎年受難週に行われる「聖晩餐礼拝」において語られた説教7編などを収録。「大衆伝道者」として語る著者の、激しくも慰め深い説教から、世界で最も知られた晩餐の出来事を臨場感を持って味わう。

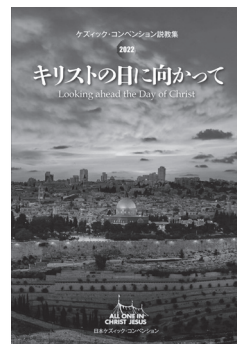
吉村和雄 (よしむら かずお)
1949年、福島県いわき市生まれ。東京大学工学部卒業。東京神学大学大学院修士課程修了。1990年～2021年、単立キリスト品川教会主任牧師。現在は同教会名誉牧師。全国説教熟事務局長。

四六判・152頁・定価1,760円(税込)

キリスト新聞社 since 1946
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

聖化と聖書講解を 特徴とする説教集

〈評者〉藤原導夫



ケズイック・コンベンション
説教集2022
キリストの日に向かって
大井 満責任編集



本書にはイギリス、アメリカ、インドなど海外講師三名による説教が九篇、日本の牧師六名による説教が七篇収められています。いずれも2022年に日本各地で開催されたケズイック・コンベンションで語られたものです。ケズイック・コンベンションとは、イギリスのケズイック地域で始まったホーリネス運動促進のために生まれた超教派的聖会です。その歴史と伝統を受け継いで日本でも北海道から沖縄までの各地で毎年講師を立てて「聖会」が行われています。聖会は2022年で61回となりますが、各地の聖会の開催期間は1日〜3日とさまざまであり、会衆は教職者、信徒の別なく参加出来るものとなっています。

この集いの特徴は、いわゆるきよめ派と呼ばれるグループが中心となっており、講師も会衆もそのような人々で構成されています。しかし近年ではより超教派的な広がりも

点では、講解説教でありつつ主題説教的でもあり、聴き手にも論理的に整った分かりやすい説教として語られています。

このことは本書の説教者すべてに基本的に共通する特徴ですが、「かつて、そこにおける」聖書の釈義のみならず、「いま、ここにおける」次元にもブリッジを架けて、その聖書テキストの意味を説き明かそうとする取り組みがなされているところは大きな力や魅力となっています。なぜなら聴き手はその聖書テキストの過去の意味のみならず、それが現在においてどのような意味をもって自分に語りかけているのかを知りたいと願っているからです。そのような点からすれば、本書に収められている説教はきわめて良くバランスが取れており、聴き手の心に深く届くものとなっ

もって講師も会衆も構成されている様子もうかがえます。そして、そこで語られる説教も単に「きよめ・聖潔」の強調のみならず、キリスト者生活全般にわたる領域へと広がっていることが見て取れるように思われます。

ここで語られる説教は基本的に「バイブル・リーダーグ」(聖書講解)です。聖書テキストを取りあげ、それらを丁寧に解説していくのです。けれどもテキストの流れを忠実に追うことに留まらず、それらを論理的に再構成して主題的にも語るといふ特徴も見られます。例えば、本書の最初に記されているジョン・ラムの説教は「ピリピ人への手紙」四章六〜九節からです。基本的にはそこを解き明かしていくのですが、①神の備えにより頼む、②神の目的を知る、③神の平安を知る、④神の真理に焦点を合わせ、というように主題的にも整えられているのです。その

ていると言えましょう。

日本人六名の説教者は私が存じ上げている方々も多く、興味をもって耳を傾けました。そこではすでに指摘したように聖書テキストから「演繹的に解き明かす」流れがやはり中心ですが、中には日常的な事柄から説き起こして聖書テキストに橋を架けて語るといふ「帰納的スタイル」も見られ、ケズイック説教の多様性や変化をもうかがい知ることができました。一読をお勧めします。

(ふじわら・みちお) お茶の水聖書学院前学院長
(四六判・一九六頁・定価一四三〇円・ヨベル)

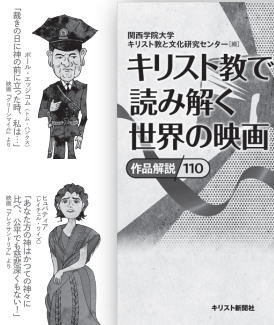
世界の映画のキリスト教背景を
神学者・牧師が徹底解説

キリスト教で 読み解く 世界の映画

作品解説 110

関西学院大学
キリスト教と文化研究センター [編]

日本の神学を牽引する気鋭の神学者、現役牧師たちが世界各国の映画を、キリスト教的視点から徹底解説。布教、礼賛から批判、風刺まで、キリスト教の用いられ方はさまざま。アクション、SF、ホラー、サスペンス、ミステリー、コメディ、ロマンス、ドキュメンタリー……映画に秘められたキリスト教的背景がわかると、映画はもっとおもしろい!



アレクサンドリア
王妃マルゴ
グリーンマイル
シックス・センス
ショーシャンクの空に
白バラの祈り

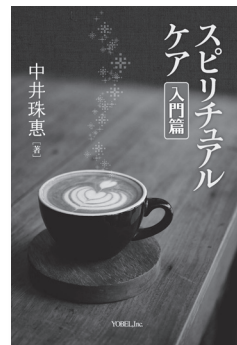
ターミネーター4
ダ・ヴィンチ・コード
デッドマン・ウォーキング
天使にラブソングを…
ノア 約束の箱舟
他、全110の映画を網羅!

A5判・250頁・定価1,980円(税込)

キリスト新聞社 since 1946
162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL 03-5579-2432

謙虚な姿勢で、独自性高く、
事例に則した解明

〈評者〉島蘭 進



スピリチュアルケア

入門篇

中井珠恵著



スピリチュアルケアとは何か。現在、変容しながら、広められ、深められている事柄である。それだけにわかりやすく説明するのは容易でない。ところが、この書物は、それを現場の経験に即して、たいへんわかりやすく説明してくれている。

まず第1章は歴史篇と言える。現在、諸宗教、ひいては無宗教の人々にも次第に深く関心をもたれるようになっていくスピリチュアルケアだが、もとはキリスト教の牧会ケアにある。では、牧会ケアはいつどのように形をなして来たのか。キリスト教には「たましいのケア」の長い歴史がある。だが、二〇世紀に入ってそれが新たな様態に展開する。「顔の見える一人ひとりを大切にし、それぞれの抱える問題を支援するように」なる。アントン・ポイズンやリチャード・キャボットにより臨床牧会訓練が体系化され、

これを國分功一郎による西洋言語学の「中動態」の理論と照らし合わせている。ここでも著者自身が自己を捉え直すことで、他者と感じ合う場が現れた事例が効果的に用いられている。

第4章ではケア者の信仰が基盤となる「宗教的（牧会）ケア」とケアされる人の世界に即してケアが構成されていく「スピリチュアルケア」をいちおう分けた後で、両者の適切な関係づけが探られている。事例に即して区別はできるが、宗教に対して柔軟な捉え方がなされるとき、両者は重なり合っている。だが、信仰をもつが故の強さとそれ故の辛さもあると捉えられている。

第5章「ケアを受ける立場から」では、著者の義母がクロイツフェルト・ヤコブ病で亡くなったときの患者家族としての経験から、急激な認知症的な症状に襲われた患者の家族が被る苦しみと、それが解きほぐされるに至る過程について述べている。第4章の事例でも死にゆく人に「天国に行く」という信念がある場合、そのことが遺族にもつ意味が語られている。そのような方向での受容を助けるケアについて考察されている。

著者はキリスト者であり、長く牧会ケアとスピリチュアルケアの研究を積み、その実践に携わってきた。その中で

学問的にも基礎づけがなされるのは一九四〇年代のことだ。第2章、第3章はスピリチュアルケアの核心的な要素をどう捉えるかについての理論を取り上げ、それを著者のケア経験に即して説明したものだ。村田久行氏が終末期医療のためにスピリチュアルペインを時間的、関係的、自律的という三側面から現象学的に分析する方法を提示した「村田理論」だが、著者は死を前にした数人の患者さんの事例に即して説明するとともに、この議論だけではケア者側からの一方通行のケアになる危うさがあることを示している。第3章では、上智大学でのスピリチュアルケア師養成プログラムで伊藤高章が用いている、自己相対化を経た「新たな場の創出」の考え方について説明している。ケア者側が思い込みを押し付けないために、その都度、自己が感じていることを自覚することに力点を置いたケアのあり方だ。

培われた柔らかい感性と苦難のなかにある人への謙虚な姿勢が随所に感じられ、スピリチュアルケアとは何かが事例に即して理解される。キリスト教の伝統を踏まえつつ、その枠を超えたスピリチュアルケアのあり方がよく見えてくる、独自性の高い好著である。

（しまぞの・すすむ）上智大学グリーンケア研究所元所長、東京大学名誉教授

（四六判・二三四頁・定価一七六〇円・ヨベル）

村椿嘉信著 *絶賛発売中*

荒れ地に咲く花

生きることを愛すること

YOBEL Inc.

混沌とした時代にあつて、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

四六判・160頁
定価 1,320円
ISBN978-4-909871-43-5

ヨベル YOBEL Inc.
お問い合わせ: info@yobel.co.jp
情報: http://www.yobel.co.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_syoten_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-38 教団センター・イマif	022-223-2736	共用		fcwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中区新設2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新川町9-1日キ駅前(外観専門)	03-3280-5663	03-3280-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biblepage.jp/yokohamets/index.html	sksch@mmva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.cocacn.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.co.jp/people/kyotan/	kyotan@mtbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekabooks.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jps@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三層ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/nagayara_107/index.html	sksch@ddokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2022年12月~2023年1月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
ジャン・カルヴァン著／森川 甫、吉田 隆訳	カルヴァン新約聖書註解 2 共観福音書下(上製函入)	A5	480	7,920	新教出版社	11/25
勝 田 芽 生	ロゴセラピーと物語 — フランクルが教える〈意味の人間学〉	小B6	200	1,760	新教出版社	12/9
青 野 太 潮	どう読むか、聖書の「難解な箇所」 — 「聖書の真実」を探究する	新書	288	1,320	ヨベ	12/5
原 野 百 合	夜が明けそめたとき	四六	160	1,540	ヨベ	12/25
吉 田 亮	アメリカ日本人移民キリスト教と人種主義 — サンフランシスコ湾日本人プロテスタントと多元主義・越境主義、1877~1950年を中心に	A5	326	5,940	教文館	12/20
オリゲネス著／出村 みや子 訳	キリスト教教父著作集 10 オリゲネス5 — ケルソス駁論III	A5	290	6,490	教文館	12/21
山 田 耕 太	NTJ 新約聖書註解 エフェソ書簡	A5	324	5,280	日本キリスト教団出版局	12/20
ヘンリ・ナウエン著／渡辺 順子 訳／酒井 陽介 解説	ナウエン・セレクション 傷ついた癒やし人 新版	四六	168	1,980	日本キリスト教団出版局	12/20
吉 村 和 雄	聖書が教える世界とわたしたち	A5	164	1,760	キリスト新聞社	1/6
関西学院大学キリスト教と文化研究センター編	キリスト教で読み解く世界の映画 — 作品解説 110	A5	250	1,980	キリスト新聞社	1/11
住 谷 翠	雅歌の説教	A5	128	2,200	キリスト新聞社	1/20
関西学院大学神学部編	関西学院大学神学部ブックレット 15 災害とキリスト教	A5	110	1,650	キリスト新聞社	1/27
伊 東 寿 泰	これで変わる! あなたの英語力! — 英語の環境作りのススメ	四六	272	1,980	ヨベ	1/20
B.W.アンダーソン著／高柳 富夫 訳	旧約聖書 — 物語られた歴史	A5	886	7,370	新教出版社	1/25
ジョン・H.ウェスターホフ、ウィリアム・H.ウイリモン著／荒井仁、越川弘英訳	ライフサイクルと信仰の成長 — 礼拝と教会教育を通して	A5	208	3,080	日本キリスト教団出版局	1/25
増 田 琴	マルコ福音書を読もう — いのちの香油を注ぐ	四六	256	2,640	日本キリスト教団出版局	1/25
H.W.ホーランド著／池 永 倫 明 訳	コンパクト聖書註解 コリント人への第一の手紙III	四六	282	4,070	教文館	1/30
堀 内 昭	聖書の動物よもやま話	A5	254	2,200	教文館	1/30
J.L.バレット著／松島公望 監訳／矢吹理恵、荒川歩 編訳	なぜ子どもは神を信じるのか? — 人間の宗教性の心理学的研究	A5	272	2,970	教文館	1/31
堀 江 洋 文	ハイネリヒ・プリンガー — ヨーロッパ宗教改革	菊	274	5,720	一麦出版社	1/26
松 谷 好 明	〈ウェストミンスター信仰告白〉 歴史的・分析的註解	菊	568	11,000	一麦出版社	1/31

福音と世界

2023年4月号

特集 戦争と破局

寄稿者 鈴木達治郎、白井聡、三上智恵
松永武、田島孝、福嶋揚

書評 坪光生雄「愛肉と交わり」(伊藤潤一郎)
／新連載 地域から考える在日朝鮮人史と教会史(金歌昊)／連載 古代イスラエル文学史序説(勝村弘也)、フッド・スピリチュアルズ(山下杜起)、サンダース&ヤーパー「教会におけるマイクロアグレッション」(訳 真下弥生)ほか

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編

私が小学生のころから通っている教会の牧師が一九九五年に「Jーばいぶる」というパソコンのウィンドウズ上で使用できる聖書研究ソフトを開発した。このソフトのネーミングに込めた思いを私は大学生の時に聞いたことがあり、それは、内村鑑三の「ふたつのJ」の話であった。

それは、キリストによってのみ、日本の真正な独立と自由があるとし、キリスト(JESUS)と日本(JAPAN)「ふたつのJ」への奉仕を説くという内容であった。

私は思った、「キリストと日本の役に立ちたい」。

大学卒業後、製缶機器の修理を行うエンジニアとして三年間勤めた後、一九九九年四月に日本聖書協会に入社した。

予告

本のひろば

2023年5月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 林牧人、(書評) 伊東寿泰著「これが変わる! あなたの英語力!」、吉田 亮著「アメリカ日本人移民キリスト教と人種主義」、N・T・ライト著「すべての人のためのローマ書2」、片柳弘史著「日々を生きる力」、堀内昭著「聖書の動物よもやま話」他

あれから二五年。私は、広報募金部、頒布部、総務部、直営書店バイブルハウス南青山店長などさまざまな仕事に携わってきた。そしてこの度『本のひろば』編集委員となった。

書店店長時代には、『本のひろば』を注文商品と一緒にお届けした経験がある。この冊子で紹介された書籍を一度に二十冊、三十冊などのご注文をいただくこともあり、これが用いられていることを実感する機会となった。今後も読者のニーズにあった書籍を紹介し、読者に喜んでいただけるよう、今日という一日をまっことこら込めて働いていきたいと思う。

(加藤)

2023年 3月の新刊

パウロ書簡に こだまする聖典の声

パウロは「旧約」聖書をどう読んだか

リチャード・B・ヘイズ／東よしみ 訳



◆A5判 上製・368頁・定価6,820円

問テクスト性の観点から「旧約」とパウロ書簡の間に生まれる響きに耳をすませ、パウロの「旧約」引用に内在する論理を明らかにする。

はじめての マルコ福音書

棟居 正



◆A5判 並製・128頁・定価1,650円

マルコ福音書を初めから終わりまで、新共同訳聖書の小見出しごとに、ゆっくりじっくり読み進める。聖書を初めて手に取る方に最適。

主よ、わが唇を 開きたまえ

説教黙想集

加藤常昭 編訳

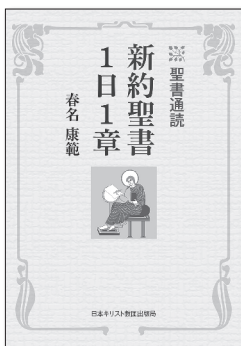


◆A5判 上製・682頁・定価8,800円

説教塾セミナーで実際に用いた、11本の聖書テキストから釈義、黙想、礼拝説教に至る資料を集成。「説教準備の仕方」が学べる1冊。

聖書通読 新約聖書 1日1章

春名康範



◆A5判 並製・280頁・定価3,080円

マンガ説法などで福音をわかりやすく伝えてきた著者が、新約聖書を1章ごとに1ページで簡潔に解説し、毎日の通読を導く。

N・T・ライト新約聖書講解2
すべての人のためのマタイ福音書 2 16―28章

N・T・ライトによるシリーズ第四弾！
N・T・ライト著 井出 新訳



マタイ福音書後半部が描くイスラエルのメシアとしてのイエス像。マタイが伝えようとした神の王国の到来と、神に召された者のあるべき姿とは？ 時代背景を平易に解説しつつ、現代に向けて生き生きと福音を語る。

● 四八判・並製・300頁・定価3,080円

コヘレトと黙示思想

小友 聡 著

荒唐した時代に、いかなる知恵で対峙するか？

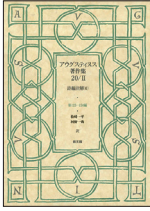
歴史の「終わり」を渴望する黙示思想に抗い、「終末は無い」と主張するコヘレト。厭世的な書との誤解を解き、皮肉や逆説を駆使して語られる「救済」を解明する。

● A5判・上製・320頁・定価5,500円



3月の新刊 (価格表示は税込)

唯一無二の著作集
ついに完結！



アウグスティヌス著作集 第20巻II

詩編注解(6)

アウグスティヌス 著 河野 一典 / 松崎 一平 著

40年以上の歳月をかけて、「アウグスティヌス著作集」ついに完結！ 詩編作者の声に聴きながら、絶えず主イエス・キリストの姿を描く本注解は、教会史上の傑作と呼ばれる。本書には123―150編を収録。

● A5判・上製函入・914頁・定価12,100円

ハーマンにおける言葉と身体
聖書・自然・歴史
川中子義勝 著



ゲーテから「時代の最も鋭敏な知性」と評され、18世紀の思想的思潮をなした啓蒙主義を批判し、啓蒙の弁証法を先取りしたハーマンの生涯・思想・影響を網羅する一冊。

● A5判・上製・302頁・定価5,280円

民芸の心 (新装和英版)

湯浅 八郎 述



田中文雄 編
ICU湯浅八郎記念館 新装版編集
湯浅八郎晩年の民芸講義に英語訳を付し新装刊行。図版も多数収録。

● 四八判・並製・288頁十図版16頁・定価2,200円

イエズス会の規範となる学習体系

(1599年版) 羅和対訳

ロバート・キエサ 訳注解
高祖敏明 / 梶山義夫 翻訳協力

西欧の学校教育の礎となった(学事規定)本文と邦訳。

● A5判・上製・320頁・定価4,950円

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二三年四月一日発行 毎月一回(一日発行)
本のひろば 第七八四号 二〇二三年四月号

発行所 〒162-8614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話 03-3360-1652 振替 001-1701-1679
発行人 金子和人 編集人 桑島大志 印刷所 モリモト印刷舗
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 03-3360-1567

定価七八円(税抜七円) (千63円)
一年分(二〇〇円) (送料共)

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は (e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



本のひろば.com

